

木の実を用いたクリスマスツリー作り

12月20日（月）酒田市宮海字新林の西荒瀬保育園児を対象とした「木の実を用いたクリスマスツリーづくりによる森林環境教育」を実施しました。

酒田地域は日本海の低気圧の影響で雨降りの天気となり、師走としては暖かい天気でクリスマスツリーづくりが始まってからは、晴天の天気になりました。

「木の実を用いたクリスマスツリーづくりによる森林環境教育」には年長組園児38名、保育園先生4名、庄内森林管理署1名、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター4名、総勢47名で行いました。

ツリーは、センター職員が国有林の保育作業終了箇所等から拾ってきたものを使用し、ツリーの枝葉にドイツトウヒの実を、ツリーの幹にクロモジの枝を、ツリーの土台にホウノキの幹を使い、園児のために精根込めてツリーを作りました。さらに、ツリーの梢に白色を入れてホワイトクリスマスの雰囲気を出して見ました。

園児達は、ツリーの飾り付けのポイントについて、保育園の先生から指導を受けてから自分に合ったツリーを選んでいました。園児の皆さん全員が大きくて形が良いものを選んで中にはケンカが起きるのではないかと心配しましたが、そのようなこともなく自分に合ったツリーを選んでいました。

園児の皆さんは、自分で選んだツリーの飾り付けに入り、木工ボンドでお星様やビース、モール、鮮やかな色の花びらや葉っぱなどの飾り付けを行いました。しかし、飾りものがくっかないものは、当センター職員等がプラガンで接着し飾り付けの手伝いを行いました。園児の皆さんも当センター職員等も懸命に飾り付けを行った結果、園児の皆さん、一人ひとりの個性溢れるツリーが出来上がりました。

最後に、園児達は、自分だけのツリーを胸の前に持ち、ツリーづくりの感想を発表してくれました。「お星様を付けるのが難しかった」「ツリーを綺麗に飾ることが出来て嬉しかった」など多くの園児の皆さんから感想を発表して頂きました。

春から見てきている当センター職員等としては、成長している園児達を肌で感じ、森林環境教育の必要性が益々重要であると再認識しツリーづくりを終了しました。

